

サーバー増強、また増強… 負のスパイラルから Google Apps for Business で脱却



株式会社マイナビ

〒100-0003
東京都千代田区一ツ橋一丁目1番1号
<http://www.mynavi.jp>

会社概要

昭和48年(1973年)8月15日設立。
就職情報サイト「マイナビ」や、転職情報サイト「マイナビ転職」などの各種人材情報サービスの提供や求人・採用活動に関するコンサルティングを行う。その他にも、進学、ニュース、ウエディング、住まい情報など、「マイナビ」ブランドの様々な情報サービスの提供や、出版事業を手がける。平成23年(2011年)10月、株式会社毎日コミュニケーションズから株式会社マイナビに社名変更。

IT 担当はいつ止まるかわからないシステムに苦悩

2012年初頭、株式会社マイナビ(以下マイナビ)のIT担当は「このままでは、いずれメールシステムがパンクする」と苦悩していた。

マイナビはインターネットの黎明期から、ITを活用した様々なサービスを展開していた。当時は、インターネットを利用するのであれば、自社でサーバーを用意し、システムを構築し、それらを自分たちで運営していく方法が普通だった。当然、必要に応じてサーバーを増強しシステムを改善していたが、それが徐々に限界に近づいていた。

とくにメールサービスについては、業務拡大によるアカウントの増加、添付データの急増などの対応に負われるようになり、2010年にはとうとうサーバーの処理が追いつかなくなってきたのだ。状況を改善するために、業務システム統括部は従業員に対して「受信したメールはサーバーから削除する」ことを繰り返し伝えた。さらにメールの使用状況やサーバー負荷状況について、「深夜や土日でも確認していました。そこまでしなくても良かったのかもしれませんが、万が一を思うと気になってしかたがなかった」と振り返る。このようなストレスに悩まされながらも、2010年の危機はサーバーの増強とシステムの改良で乗り切った。

だが休む間もなく危機が訪れる。対策を講じて、2年も経たない2012年初頭、メール送受信の遅延が発生し始めたのだ。朝の出社後の時間帯や、営業職が戻ってきてメールのやりとりが活発化する夕方には、目に見えるレベルの遅延が現れていた。業務システム統括部による対処で、システムはギリギリ持ちこたえてはいたが、いつ止まってもおかしくない状況でもあった。

IT担当は決断を下す。「苦勞してサーバーを増強しシステムを改善しても、わずか2年で限界に達する。このような負のスパイラルから抜け出すためにはサーバーの自営を止め、クラウドに移行するしかない」。

自営サーバーからクラウドへ… Google を選択

クラウドであれば、臨機応変に資源を増やすことが可能だ。「例えば、数百人の新卒が入社する場合、従来はサーバーのディスクやメモリを追加しなければならない。マシンそのものをリプレースする必要も出てくるかもしれない。しかし、クラウドであれば人数分のアカウントを追加すればいい」とIT担当。また、万が一、故障や障害が発生しても、データはクラウドにあるためBCPの面から見ても有効である。

さて、どこのサービスを利用するか。IT担当は早速、サービスの提供会社の選定に入った。だがマイナビのメールシステムが、やや特殊だったため、要件を満たすサービスはなかなか見つからなかった。1つはコストの問題。マイナビの当時の従業員数は1,700人だが、実はグループメールのアカウントは約3,000あった。このアカウント1つごとに課金されてしまうと、大変な金額となってしまう。これを解決する朗報が、グループメールのアカウントと課金について相談していたGoogleの代理店からもたらされた。代理店から提示されたものは、Googleグループ。メンバー全員が情報を共有する、掲示板とメールを組み合わせたものだ。Google Apps for Businessのサービスに含まれるためコストもかからない。また同時に、もう1つの問題であった、メール配送上のセキュリティルールへの対応も可能なことがわかった。Googleであれば問題はない。早速、IT担当はGoogle Apps for Businessの導入を決め、2012年8月、稟議を提出。スピーディに導入が決定された。

The screenshot shows the Mynavi website interface. At the top, there are navigation links: トップページ (HOME), サービス紹介 (SERVICES), 会社案内 (COMPANY INFO), グループ企業 (GROUP), ニュースリリース (NEWS RELEASE), and 採用情報 (RECRUIT). Below this is a main content area with several sections: 'その先を伝える総合情報サイト' (Comprehensive information site), 'サービスの紹介' (Service introduction), and 'マイナビ企業情報' (Mynavi company information). There is also a 'ニュースリリース' (News release) section with a list of recent updates and a '今月のイベント予定' (This month's event schedule) section.

Google Apps について

「Google Apps for Business」は、クラウドの価値を実感できる、画期的なホスティング型オフィススイート。1人30GBまでの大容量メールボックス、会議への招集も簡単なカレンダー、1つのドキュメントをオンラインで共有しながらのレビュー、誰でも簡単に立ち上げられるサイト、急ぎの用件や確認に便利なチャット、円滑なリモートワークを実現するビデオ通話、動画の投稿や共有、そして強力無比の検索など。Google Apps for Businessには、社内情報を共有・管理し、最大限に活用するさまざまな機能がセットされています。しかも、費用は1ユーザーあたり年間6,000円。IT部門の管理者は、サーバー需要の増加、メンテナンス作業、セキュリティ対策などに悩む必要もありません。

詳細は、<http://www.google.co.jp/a>まで

*すべての企業名及び製品名は、該当する企業の商標または登録商標です。

導入時は、旧システムを利用しながら段階を踏んで移行する予定であった。だが新たな問題も見つかり、それをクリアする作業にムダを感じたIT担当は、「いっそ思い切って、一気に移行してしまおう」と決断。2012年の12月には一部が、2013年2月には、全てがGoogle Apps for Businessに移行されることになった。

導入してみてもわかった Google Apps のメリット

今後どれだけアカウントが増えても、サーバーを購入したり、細かな設定変更をする必要がなくなった。稼働率も重要だ。Googleほどの企業であっても完璧ではない。ごくまれにはあるが、障害が発生することもある。だが復旧は迅速で、長時間のシステムダウンはほぼ無い。これだけでも、業務システム統括部のメンバーの心はかなり楽になった。

システムとしては大きな変更だったが、既存のメーラーを使えるように設定したため、実際に使う側としては、特に大きな変更もなく、これまで通りの操作で作業ができた。また、スマートフォンやタブレットで利用する場合は、マイナビではGmailのブラウザ画面を利用することになった。「Gmailのユーザーインターフェイスは優れたものです。特にモバイルについては非常に使いやすい」とIT担当は言う。馴染みのあるインターフェイスだったこともあり、ほとんどの者が違和感なく使用することができた。

メールの容量と検索機能、デバイスフリーのメリットも実感できた。これまではサーバーに負荷をかけないために、メールデータはサーバーからは削除するようになっていた。この場合、過去のメールは、ダウンロードしたクライアントでしか検索できなかった。現在、一人あたりのメールボックスは30GBあり、この容量であれば、普通に使用している人なら数年間は保てる。外出先からでも、スマートフォンやタブレットで過去のメールを検索したりできるので、利便性の上でもかなりのメリットがある。ただし、マイナビでは、社外からのアクセスに対しフィルタリングや認証ルールを厳密に設定しており、相応の制限がなされている。IT担当は「セキュリティを無視することはできません。その一方で、モバイルなどの利便性も活かす必要があります。Google Apps for Businessは、そのバランスが取りやすい」と語る。

より利用しやすくするために…業務システム統括部の挑戦

Google Apps for Businessで、導入以前と同じアカウントが使えることは、使う側にとって魅力だったようだ。またメーラーについては、「メールをすべてブラウザにしようという考えもあった。また、そうすることによって利便性が上がる部分も、確かにあった。ですが、使い方を変更してしまうと、短期的には生産性が落ちてしまいますし、人が介在する以上は使い慣れたルールがあります」と、IT担当は使う側への配慮を重視した。移行後も、スムーズにメールが利用できるように、業務システム統括部は常に気を配り続けた。そして、移行から約8か月、様々な調整を重ねた結果、メールシステムの運用方法はほぼ完成したという。

以前のように、メールが止まるというプレッシャーや、サーバーの拡張などに頭を悩ます日々からは解放された。だが、だからと言って業務システム統括部の仕事が無くなった訳ではない。「もっと使いやすく便利なものに進化させること、それが今の目標です」とIT担当は語り、例えば「Googleドキュメントが活用できれば、情報の共有という面において、更に利便性が増す。また、スマートフォンやタブレットを、もっと活用できる仕組みについても検討中」という。「今はやることが多くて、すごく困っています」と語るIT担当の表情は意外にも、いや当然ながら明るい。



お問い合わせ

Google Apps for Businessの詳細については、<http://www.google.co.jp/a>をご覧ください。

© Copyright 2014 Google

Googleは、Google Inc.の商標です。その他すべての社名および製品名は、それぞれ該当する企業の商標である可能性があります。

© Copyright 2014 Google is a trademark of Google Inc. All other company and names may be trademarks of the respective companies with which they are associated. GECS 03/15/12